



奈良文化財研究所創立60周年記念 式典・祝賀会を振り返って

2012年10月18日、奈良文化財研究所創立60周年記念式典は、あいにくの肌寒い秋雨の中、近藤誠一文化庁長官をはじめ国内外から約250名という多数の方々のご出席を得て、奈文研の還暦に相応しい熱気に満ちた記念式典を挙行することができました。

はじめに、所長として「創立当時の理念を忘れず、これからも日本文化の形成の過程や特質をあきらかにし、国内外に日本文化の素晴らしさを発信していきたい」と式辞を述べたのに続き、近藤誠一文化庁長官から「東日本大震災後の混とんとした世の今こそ歴史に思いを馳せ、日本人の心を見つめる時期。奈文研の役割は、ますます重要になっていく」と祝辞をいただきました。また、佐々木丞平国立文化財機構理事長、荒井正吾奈良県知事、仲川げん奈良市長および奥野誠亮元文部大臣（現：奈文研特別名誉顧問）から、奈文研が長年おこなってきた文化財の調査研究や発掘調査等の功績に賞賛をいたぐとともに、文化財を通じて奈文研の果たすべき役割の重要性がますます増していくことへの期待など、身の引き締まるお言葉も同時にいただきました。これらのことは、所員の努力が高く評価されていると嬉しく思う反面、奈文研の果たすべき役割の

重大さを改めて痛感した次第です。

式典に引き続きおこなわれた祝賀会は、矢野和彦文化庁文化財部記念物課長の祝辞、坪井清足元所長による乾杯の音頭で始まりましたが、奈文研OB会を兼ねていたこともあり、和やかな雰囲気祝賀会となりました。奈文研の歴史を紹介するスライドや、30年前に作成した平城宮の発掘風景のビデオが上映される中、鈴木嘉吉元所長、田中琢元所長、田辺征夫前所長からお祝いのお言葉と思いで話（うねめ）をいただきました。また、采女（ま）の天平衣装を纏った女性職員が飛び入り参加して場を盛り上げ、昔話に花を咲かせながら盛会の内に60周年を祝うことができました。

最後になりましたが、関係者や所員の皆様、大変お疲れさまでした。

（所長 松村 恵司）



松村所長の式辞



近藤文化庁長官の祝辞



松村所長と奥野元文部大臣（現：奈文研特別名誉顧問）